

審議事項

- 1 主要農作物奨励品種等の採用について
小麦「ゆめかおり」の認定品種への採用について
- 2 主要農作物奨励品種等の区分変更について
水稲うるち「えみほころ」の認定品種から奨励品種への区分変更について
- 3 主要農作物奨励品種等の廃止について
水稲うるち「日本晴」の認定品種の廃止について
裸麦「イチバンボシ」の奨励品種の廃止について



生 振 第 9 4 1 号
令 和 8 年 1 月 2 3 日

埼玉県種苗審議会 会長 様

埼玉県知事 大 野 元 裕
(公印省略)

主要農作物奨励品種等の採用等について（諮問）

執行機関の附属機関に関する条例（昭和 28 年埼玉県条例第 17 号）第 2 条に基づき、主要農作物奨励品種等の採用等について、下記のとおり貴審議会の意見を求めます。

記

1 諮問事項

(1) 主要農作物奨励品種等の採用について

ア 小麦「ゆめかおり」の認定品種への採用について

(2) 主要農作物奨励品種等の区分変更について

ア 水稲うるち「えみほころ」の認定品種から奨励品種への区分変更について

(3) 主要農作物奨励品種等の廃止について

ア 水稲うるち「日本晴」の認定品種の廃止について

イ 裸麦「イチバンボシ」の奨励品種の廃止について

2 諮問理由

別紙

(1) 主要農作物奨励品種等の採用について

ア 小麦「ゆめかおり」の認定品種への採用について

① 品種特性

平成22年に品種登録された長野県農業試験場育成品種であり、製パン性に優れる硬質小麦である。

「ハナマンテン」に比べ、出穂期は4～6日、成熟期は3日遅く、稈長は長く、穂長は短く、穂数は同程度～やや少なく、千粒重は重い。収量は標播が同程度、多播がやや低収、穂発芽性は「やや難」、コムギ縞萎縮病抵抗性は「強」、耐倒伏性は「強」である。これまでに、栃木県、長野県、茨城県、山梨県、神奈川県、群馬県で奨励品種等に採用している。

② 取組状況

これまでに、奨励品種決定基本調査を平成24、25年度、令和4～6年度、現地調査を令和4～6年度に実施した。

令和7年度は、人間地域で現地実証栽培（約3ha）を実施中であり、今後、生産サンプルを実需者評価に供する予定である。

③ 採用の理由

パンや中華麺に使用される硬質小麦については、輸入割合が高いものの堅調な国内需要が見込まれており、本県においても、こうした需要に対応でき、かつ県内での栽培に適した品種の導入が求められている。

本品種は粒が大きく、蛋白質含有率高いこと、収量が標播で同程度～多収であることから安定した生産・供給が期待できる。

育成地（長野県）での原種生産の終了により種子の確保が困難となった「ハナマンテン」の後継として、令和8年播きから種子の増殖を行う計画であり、埼玉県主要農作物奨励品種等の決定基準4の（1）に基づき認定品種に採用する。

(2) 主要農作物奨励品種等の区分変更について

ア 水稻うるち「えみほころ」の認定品種から奨励品種への区分変更について

① 品種特性

令和4年3月に品種登録出願した農業技術研究センター育成品種であり、主食用の水稻うるち種である。

出穂期および成熟期が「彩のきずな」と「彩のかがやき」の中間、稈長・穂長は「彩のかがやき」と同等、穂数は「彩のきずな」と「彩のかがやき」より少なく、千粒重は「彩のきずな」と同等である。収量は「彩のきずな」「彩のかがやき」と同等、玄米品質は良好、食味は「彩のきずな」「彩のかがやき」並である。高温登熟性は「強～やや強」、耐冷性は「やや弱」であり、葉いもち「やや弱～弱」、穂いもち「中」、紋枯病「弱」、白葉枯病「弱」であるが、イネ縞葉枯病抵抗性を持ち、耐倒伏性は「やや強」である。

② 取組状況

令和4年度に認定品種として採用され、令和5年産から県種苗センターで原種生産、令和6年産から指定採種ほで種子生産を開始した。

また、令和6年産及び令和7年産で、大規模実証ほを延べ68か所に設置し、現地検討会の実施等を通じ、生産者への品種特性に関する理解促進等を図った。

③ 区分変更の理由

実需者からの安定した県産米供給のニーズを踏まえ、「彩のかがやき」から高温耐性に優れる「えみほころ」への全面的な切り替えを進めており、令和8年産の生産面積が1,400ha以上となる見込みである。

今後も作付拡大を積極的に奨励する予定であることから、埼玉県主要農作物奨励品種等の決定基準2に基づき奨励品種に区分変更する。

(3) 主要農作物奨励品種等の廃止について

ア 水稻うるち「日本晴」の認定品種の廃止について

① 栽培の現状

昭和40年度に奨励品種に採用されて以降、生産が継続しているが、他品種への転換が進み、作付面積が著しく減少している。

県内における令和6年産の農産物検査実績は9トン（面積にして約1.8ha相当）であった。

② 廃止の理由

一定の需要はあったが、既に他品種への転換が進んでおり、今後も生産数量が増加する見通しはないことから、埼玉県主要農作物奨励品種等の決定基準5の(3)に基づき、認定品種から廃止とする。

イ 裸麦「イチバンボシ」の奨励品種の廃止について

① 栽培の現状

平成12年度に奨励品種に採用されて以降、生産が継続してきたが、気象条件等により収量や品質が不安定になるなど栽培が難しいことなどから、近年は作付面積が著しく減少している。県内における令和7年産の農産物検査数量は10月末現在で0となっている。

② 廃止の理由

既に作付がほとんど見られず、今後も生産数量が増加する見通しはないことから、埼玉県主要農作物奨励品種等の決定基準5の(3)に基づき、奨励品種から廃止とする。

奨励品種について

農林部 生産振興課

1 奨励品種とは

奨励品種とは、各都道府県がその都道府県に普及すべき優良な品種として決定した品種のこと。（埼玉県主要農作物種子生産基本要綱）

* 主要農作物＝稲、大麦、はだか麦、小麦、大豆

2 奨励品種の決定

奨励品種の決定に当たっては、都道府県で普及適性について試験を行い、候補を選定したのち、奨励品種審査会（本県においては「埼玉県種苗審議会」）の意見を聞き、知事が決定する。

3 奨励品種の種類

本県では、埼玉県主要農作物種子生産基本要綱に定める奨励品種として、奨励品種、準奨励品種、認定品種の3つを規定している。

奨励品種の種類と採用基準

区分	普及範囲	採用基準
奨励品種	全域	既存の奨励品種に比べ優れており、積極的に奨励しようとするもの
準奨励品種	計画的	優良な特性を持つが、下記の条件のもと計画的な普及をするもの ①品種の特性から特定の地域に限って普及する必要があるもの ②実需等の要望から地域・数量を限定して普及するもの ③実需の評価低下や他の優良品種の採用により、作付を減少させるもの
認定品種	限定的	有望と認められるが、下記の理由により限定的な普及をするもの ①将来の本格普及のため、種子の増殖を行うもの ②地域適応性等の確認のため、暫定的に生産するもの ③特定用途向けで、重要な位置づけを持つもの

埼玉県主要農作物奨励品種一覧（令和7年）

種類		品種数	区分	品種名		
水稻(7)	粳(うるち) (7)	3	奨励	コシヒカリ	彩のかがやき	彩のきずな
		2	準奨励	キヌヒカリ	さけ武蔵	
		2	認定	日本晴	えみほころ	
麦(6)	小麦(3)	2	奨励	さとのそら	あやひかり	
		1	認定	ハナマンテン		
	六条大麦 (1)	1	奨励	すずかぜ		
	二条大麦 (1)	1	奨励	ニューサチホ ゴールデン		
	はだか麦 (1)	1	奨励	イチバンボン		
大豆(1)		1	奨励	里のほほえみ		

埼玉県主要農作物奨励品種等の決定基準

平成30年4月1日

埼玉県農林部
埼玉県種苗審議会

1 奨励品種の考え方について

埼玉県主要農作物種子生産基本要綱第3条に基づき、県内に普及すべき主要農作物の優良な品種（以下「奨励品種」という。）の決定基準について、定めるものとする。

奨励品種の種類は、「奨励品種」、「準奨励品種」及び「認定品種」とし（以下「奨励品種等」という。）、それぞれの採用及び廃止基準は、以下のとおりとする。

2 奨励品種の採用基準

栽培上の重要な特性（収量、病虫害抵抗性、品質等）及び生産物利用上の重要な特性を総合的に勘案し、既存の奨励品種と比較して優れていると認められ、県が積極的に奨励しようとするもの。

3 準奨励品種の採用基準

優良な特性を有している品種であって、次に掲げる条件のもと、県が計画的に普及を図ろうとするもの。

- (1) 栽培上の特性（作期、収量、病虫害抵抗性等）を考慮し、特定の地域に限って普及する必要があるもの。
- (2) 実需者等の要望に基づいて、地域・数量を限定して普及するもの。
- (3) 実需者評価の変化や他の優良な品種の採用等により、作付面積を減少させる必要のあるもの。
- (4) その他、一定の条件を付けて普及しようとするもの。

4 認定品種の採用基準

有望と認められる品種であって、次に掲げる条件のもと、県として普及に移行するために必要な措置をするもの又は極めて限定的に普及をするもの。

- (1) 新品種又は新系統であって、奨励品種又は準奨励品種に採用するときに速やかに普及できるよう種子の増殖（原種生産及び一般種子生産）を行うもの。
- (2) 適地範囲、地域適応性又は市場性等を確認するため、暫定的に生産するもの。
- (3) 需要は極めて限られているが、特定用途向けに重要な位置づけを持つもの。

5 奨励品種等の廃止基準

奨励品種等に採用された後、次のいずれかに該当すると認められたときは、当該奨励品種等を廃止することができる。

- (1) 奨励品種等に採用した時点と比べて、当該品種をめぐる状況が変化し、採用基準を満たさなくなった場合。
- (2) 普及対象地域で栽培上重要とされる特性又は生産物の利用上重要とされる特性に関し、重大な欠点が明らかになった場合。
- (3) 当該品種に係る作付面積が著しく減少し、今後とも増加の見通しが無い場合。
- (4) 新たな奨励品種等によって代替が可能である場合。
- (5) 当該品種の種子の供給が困難になった場合。

6 奨励品種等の公表について

- (1) 奨励品種及び準奨励品種については、決定後速やかに県報に登載するものとする。
- (2) 認定品種については、決定後速やかに関係機関、関係団体等に通知するものとする。

認定品種候補 小麦「ゆめかおり」の品種特性

農業技術研究センター

1 品種概要

(1) 来歴

- ・育成地 長野県農業試験場
- ・交配組合せ 「西海 180 号 (ニシノカオリ)」 / 「KS831957」
- ・平成 22 年 10 月に品種登録された。

(2) 特徴 (「ハナマンテン」と比べて)

- ・製パン性に優れる硬質小麦である。
- ・近年の気象条件では出穂期は 4～6 日、成熟期は 3 日遅い。
- ・稈長は長く、穂長は短く、穂数は同程度～やや少ない。
- ・千粒重は重く、収量は標播が同程度、多播がやや低収である。
- ・外観品質は同程度で蛋白質含有率は標播が高く、多播が同程度である。
- ・播性程度は I～II、穂発芽性は「やや難」、コムギ縞萎縮病抵抗性は「強」である。

2 栽培上の留意点

- ・「ハナマンテン」より出穂期が遅いため、赤かび病防除及び追肥時期に注意する。
- ・「ハナマンテン」より長稈であり、倒伏を避けるため極端な厚播や多肥を避ける。

3 具体的データ

表1 奨励品種決定調査の成績

播種量	供試播年	品種名	出穂期	成熟期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (/m ²)	倒伏程度	整粒重 (kg/a)	千粒重 (g)	外観品質	蛋白質含有率 (%)
標播	平成24、25年	ゆめかおり	4月20日	6月8日	92	7.5	553	0.0	57.1	46.5	5.0	14.2
		ハナマンテン	4月16日	6月7日	74	9.0	540	0.0	58.9	40.5	5.0	11.3
標播	令和4～6年	ゆめかおり	4月14日	6月1日	101	7.8	584	0.2	71.0	46.6	1.3	12.8
		ハナマンテン	4月8日	5月29日	83	9.1	604	0.0	68.5	39.6	1.3	10.9
多播	令和5、6年	ゆめかおり	4月16日	6月3日	101	7.8	661	0.6	67.8	45.6	1.0	12.6
		ハナマンテン	4月12日	5月31日	85	9.1	738	0.1	73.4	38.3	1.0	11.6

注1) 平成24、25年の外観品質、蛋白質含有率は平成25年播のみの値、その他項目は平均値。

注2) 標播は160粒/m²(6.6kg/10a)、多播は240粒/m²(9.8kg/10a)播種した。()内は参考として令和6年播のハナマンテンの播種量を示した。

注3) 整粒重、千粒重、外観品質、蛋白質含有率は2.0mm篩選による。

注4) 倒伏程度は0(無)～5(甚)の6段階評価。

注5) 外観品質は1(上上)～6(下)の6段階評価。

表2 奨励品種決定現地調査の成績

試験場所	品種名	播種期	出穂期	成熟期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (/m ²)	倒伏 程度	整粒重 (kg/a)	千粒重 (g)	外観 品質	蛋白質 含有率 (%)
鴻巣、 北本	ゆめかおり	11月24日	4月20日	6月5日	87	8.0	446	0.0	33.9	42.0	4.0	12.1
	ハナマンテン	11月24日	4月13日	5月31日	74	9.1	476	1.5	40.2	37.0	3.0	11.1
坂戸	ゆめかおり	11月16日	4月18日	6月4日	82	8.4	626	0.0	43.5	42.5	3.5	11.5
	ハナマンテン	11月16日	4月11日	6月1日	75	10.0	603	1.5	44.6	33.0	4.5	10.4
本庄	ゆめかおり	11月21日	4月20日	6月7日	92	7.9	486	0.3	46.3	41.9	3.3	10.9
	ハナマンテン	11月21日	4月18日	6月3日	80	9.4	509	1.0	39.0	36.1	4.3	10.3
熊谷	ゆめかおり	11月19日	4月21日	6月6日	95	8.8	542	0.0	50.4	41.9	3.3	10.8
	ハナマンテン	11月19日	4月16日	6月1日	78	9.8	557	0.1	52.1	36.7	4.7	8.9
加須	ゆめかおり	11月25日	4月18日	6月5日	79	7.5	341	0.6	33.4	41.6	5.0	9.4
	ハナマンテン	11月25日	4月13日	6月3日	68	8.6	371	0.1	29.7	34.7	3.0	8.9

注1)鴻巣・北本、加須が令和4、5年播、坂戸が令和5、6年播、本庄、熊谷が令和4～6年播成績の平均値。農林振興センター農業支援部による調査結果

注2)整粒重、千粒重、外観品質、蛋白質含有率は2.0mm篩選による。

注3)倒伏程度は0(無)～5(甚)の6段階評価。

注4)外観品質は1(上上)～6(下)の6段階評価。

奨励品種候補 水稲「えみほころ」の品種特性

農業技術研究センター

1 品種概要

(1) 来歴

中晩生・イネ縞葉枯病抵抗性・高温登熟耐性をもつ良食味品種を育種目標として、平成24年に「とちぎの星」を母親、「さ906（彩のかがやき/東北192号のF₆系統）」を父親として人工交配を行った組合せから育成した中晩生の水稲粳種である。令和4年7月26日に出願公表された。

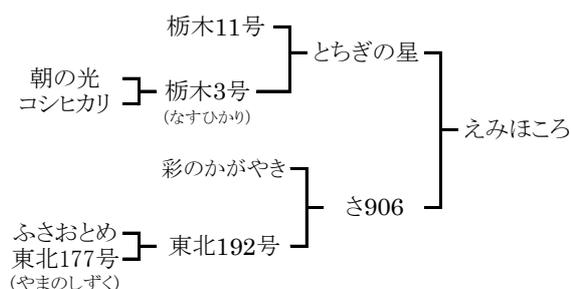


図1 系譜図

(2) 特徴（「彩のかがやき」との比較）

- ・出穂期は2～7日、成熟期は6～11日早い。
- ・稈長は、早植は同等、普通期は8cm長く、穂長は同等、穂数は1株当たり同等～1本少ない。
- ・千粒重は1～2g重く、収量は早植では多収、普通期ではやや多収である。
- ・高温登熟性が「強～やや強」であることから、玄米品質は、登熟期間が高温に経過した早植においても白未熟粒は少なく、整粒比が高い。
- ・食味は同等以上であり、アミロースはやや低く、粗蛋白質は同等である。粘りがやや強く、甘み、粒感のある食感である。
- ・イネ縞葉枯病は同様に抵抗性であり、穂発芽性は1ランク低い「難」である。

(3) 栽培上の留意点

- ・高温登熟性は優れるが、登熟期の栄養不足は白未熟粒の発生を助長する。また、耐倒伏性は「やや強」であるが、過剰な施肥は倒伏を助長し、品質や食味の低下を招くため適正な施肥管理に努める。
- ・紋枯病は「彩のかがやき」並、いもち病は「彩のきずな」並に発生するため、多発が予想される条件の際には、適宜防除を行う。

2 県内の普及状況等

「えみほころ」は中晩生熟期であることから、いずれの作型においても栽培が可能であり、高温による品質低下やイネ縞葉枯病の発生が多発している地域において有利性が期待できる。

令和7年は約100haの一般栽培が行われた。次年度以降も栽培面積は拡大予定で、生産者、実需者評価を得ながら、種子生産に取り組み、普及を進める。

3 具体的データ

表1 奨励品種決定調査結果（令和元年～7年）

栽培条件	品種系統名	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	倒伏程度	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	精玄米重 (kg/10a)	千粒重 (g)	穀粒判別器 (%)		
										整粒	白未熟粒	その他未熟粒
早植	えみほころ	8/2	9/9	0.0	78	21.5	364	522	21.6	55.7	12.6	24.0
	彩のかがやき	8/9	9/20	0.0	76	20.9	379	438	19.5	33.2	39.3	19.1
普通期	えみほころ	8/20	9/30	0.1	80	21.6	347	492	22.0	73.1	4.7	14.3
	彩のかがやき	8/22	10/5	0.0	72	21.4	352	469	21.2	62.5	18.9	12.0

注) 移植期は早植5月11～14日、普通期6月21～23日。
 施肥量(窒素成分, kg/10a) 基肥5、中間肥2(早植・彩のかがやきのみ)、穂肥3。
 倒伏程度は無: 0～甚: 5の6段階評価。

表2 「えみほころ」の食味官能試験結果

年産	作期	総合	外観	香り	味	粘り	硬さ
令和2	早植	0.00	-0.14	0.38 *	0.05	-0.10	-0.33
	普通期	0.08	0.56 *	-0.32	-0.08	0.36	0.00
令和4	早植	0.50 *	0.33	0.17	0.39	0.22	-0.11

注) 食味試験の方法は日本穀物検定協会の方法に準ずる。
 *は5%水準で有意差があることを示す。
 基準品種は「彩のかがやき」。

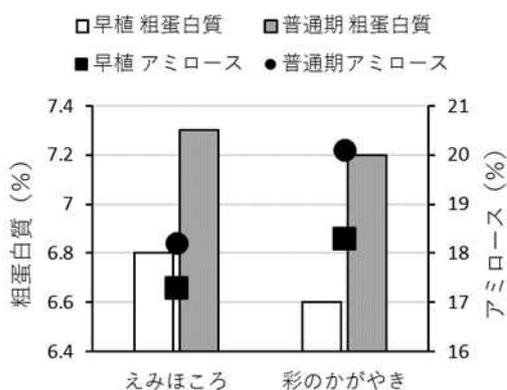


図1 精米の理化学成分



写真1 玄米外観品質

写真1 玄米外観品質